

上昇基調が続くハイイールド債

Raku Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

2014年1月からの米国の量的緩和縮小開始とともに、米国金利の上昇が予想されていたものの、予想外にも金利が低下したことで、ハイイールド債の価格はさらに上昇(利回りは低下)しました。その背景には、米国の景気回復が緩やかなことや、米国のインフレ率が比較的安定していることなどから、事実上のゼロ金利政策は当面続くとの観測が高まったことによるものと見られます。

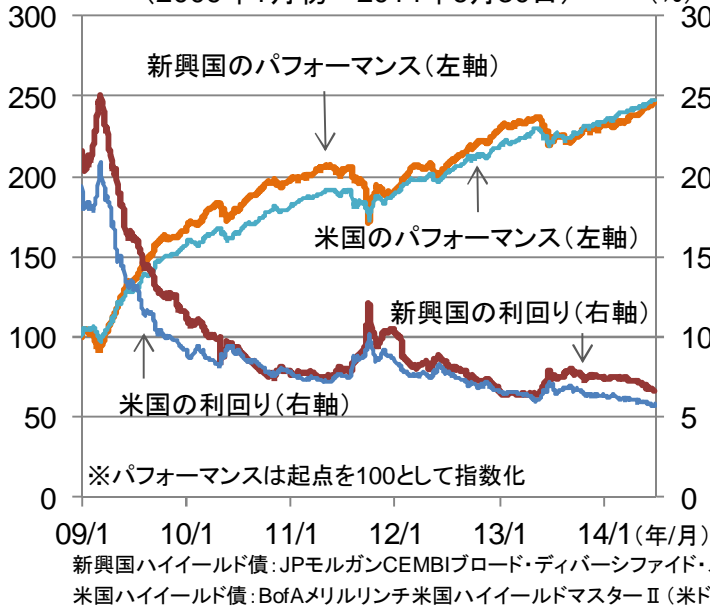
ハイイールド債は格付が低い代わりに相対的に利回りが高い債券のことで、高格付債に比べて景気や企業業績などの影響で価格が変動しやすい特徴があるうえ、クレジット市場の価格形成の指標となっている米国債利回りが低下(価格は上昇)すれば、ハイイールド債の利回りは低下(価格は上昇)しやすい傾向にあります。

2010年以降、世界的な景気回復傾向とともに、ハイイールド債のデフォルト率が低下したことや、主要先進国で金融緩和による低金利が続く中、利回りを追求する投資家行動などから、ハイイールド債の価格は上昇基調が続いており、足元では、米国ハイイールド債の利回りが5%台まで低下するなど、一部で過熱感が指摘されています。しかし、先進国を中心とした世界的な景気回復傾向により、今後、デフォルト率が大きく上昇する環境にはないと見られることや、主要先進国で金融緩和が継続していることから、米国の金融引き締めが早期に実施されないようであれば、相対的に利回りの高いハイイールド債が選好される投資環境が続くと見られます。

なお、新興国と米国のハイイールド債を比較すると、デフォルト率は同じような水準ながら、国の法制度や規制などが未整備といったことなどから、新興国ハイイールド債の利回りが比較的高い傾向にあります。先進国の低い金利水準を背景に、利回りを求める投資環境が続く場合、新興国ハイイールド債がより選好される可能性がありますと考えられます。

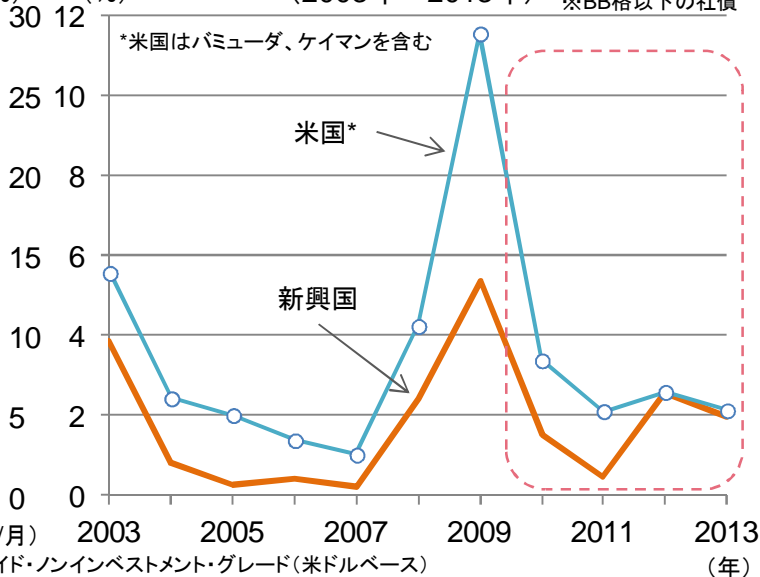
ハイイールド債のパフォーマンスと利回りの推移

(2009年1月初～2014年6月30日) (%)



ハイイールド債※のデフォルト率の推移

(2003年～2013年) (%) ※BB格以下の社債



(S&Pなど信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。